

【がん種】 [多発性骨髄腫](#)
【レジメン名】 DLd既治療③7コース目～
【登録番号】 011329
【1コースの期間】 4週間
【総コース数】 PDまで(DLd既治療②3～6コース目 終了後から)
【催吐性リスク】 軽度:レプラミド、ダラザレックス
【抗がん剤の組織障害性】 ノンビシカント(非壊死性):ダラザレックス
【投与量に制限のある薬剤】 なし
【主な有害事象】 編集中

【必要な検査】 編集中
【根拠論文】 N Engl J Med 375:1319-1331, 2016.
【点滴の時間】 [day1]初回 約8時間50分, 2回目 約6時間20分, 3回目～約5時間30分
【費用】 編集中
【その他】

ダラザレックス: 正式採用品ではないため「限定使用薬品申請書」の薬剤部への提出が必要。調製後15時間以内に投与を終了する。
治療開始前に間接クームス試験を実施する(最終投与から6ヵ月後までは、検査結果が偽陽性になるおそれがあるため)。
レプラミド: レプメイトでの運用、必ず院内処方。VTEのリスクに応じてバイアスピリン錠 1錠/日 or ワルファリンカリウム錠 (PT-INR 2～3を目標)を服用する(Leukemia 22, 414-423, 2008.)

Rp	薬剤名	量	投与方法	投与時間	投与日														
					1	2	...	8	...	15	...	21	22	...	28				
1	レプラミドカプセル ダラザレックス投与日は、朝食後に服用できない場合ダラザレックス開始前に服用	25 mg/回	内服	1日1回朝食後	○	○	○	○	○	○	○	○	○						
2	生理食塩液 250mL	1 B	メイン	キープ&フラッシュ	○														
3	アセトアミノフェン錠 200mg	4 錠/回	内服	1日1回 ダラザレックス投与1時間前	○														
4	生理食塩液 50mL デカドロン注射液 6.6mg/2mL ポラミン注 5mg/1mL	1 B 3 V 1 A	側管	全開 開始時にアセトアミノフェン内服	○														
5	生理食塩液 100mL	1 B	側管	1時間	○														
6	生理食塩液 1000mL ダラザレックス点滴静注 初回 50mL/hで開始し、1時間毎に50mL/hずつ速度を上げ、最大200mL/hまで	1 B 16 mg/kg	側管	フィルター使用 全量1000mLに調製	○ 初回														
7	生理食塩液 500mL ダラザレックス点滴静注 2回目 50mL/hで開始し、1時間毎に50mL/hずつ速度を上げ、最大200mL/hまで 3回目～ 100mL/hで開始し、1時間毎に50mL/hずつ速度を上げ、最大200mL/hまで	1 B 16 mg/kg	側管	フィルター使用 全量500mLに調製	○ 2回目～														
8	レナデックス錠 4mg	5 錠	内服	1日1回朝食後		○													
9	レナデックス錠 4mg	10 錠	内服	1日1回朝食後				○	○					○					